

# 同 志 社 大 学

## 2010 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011年 3月 5日提出

所 属	職 名	氏 名
神学部	准教授	村山 盛葦
研 究 題 目	パウロの人間論について	
研 究 成 果 の 概 要	<p>ブルトマン以来、聖書解釈において実存主義的解釈が主流となり、今なおその影響は強い。特にパウロ神学においてそれは顕著である。しかしパウロの pneuma (霊) 理解を軸に人間の pneuma と神の pneuma の用法を考察することで、パウロの人間論は現代の実存主義的理解を内包しつつもそれに留まらない広がりがあることが分かった。背景として古代人の宇宙観と黙示的終末論があるが、人間が宇宙の一部であり、かつそれぞれの構成物質が互換性を持っていると理解されていた。そして終末時に体の器であるソーマーに pneuma が充満することで復活の体へと変態するのである。今後、このようなパウロの人間論が近現代の人間論にとってどのような意義・役割を持っているのか考察を進める予定である。</p>	